

[027] 中国文学論集表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/9900>

出版情報：中国文学論集. 27, 1998-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

ここに『中国文学論集』第二十七号をお届け致します。今回は、本年四月から九大中国文学研究室に外国人教師として御赴任戴いた汪涌豪先生に、文学批評史上重要な概念である「尚淡」について玉稿をお寄せ戴きました。また、鹿児島大学の東先生に御寄稿戴いた目録は、本論集十六号に引き続き、第二弾となるものです。この方面の研究に裨益すること大なるものがあります。更に、正木先生は「日付」というユニークな視点から蘇軾の名作に新たな光をあてられました。今回は期せずして宋代特集になった感があります。岡村真寿美先生には意外にも本論集初の御投稿を戴きました。その他、本大学院在学中の野田・黄・王三氏の意欲的な論文に加え、竹村先生の『長生殿』訳注(二)を掲載しております。

昨今の日本経済の混迷ぶりであるいは「リンク」しているやも知れませんが、当文学会の財政状況も年々逼迫度を増しております。会員の皆様から数多の玉稿をお寄せ戴くことが、当学会最大のよろこびであることは論を俟ちませんが、ご投稿の際には四百字詰原稿用紙四十枚以内の条件を遵守くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

生馬の目を抜く経済の変動を日々見せつけられていると、眩暈とも幻惑ともつかぬ妙な気分にも襲われるのは、それが悠久な時の流れに向かい合う文史哲の世界とは、あまりにも異質なものだからでしょうか。そうした異質なものの併存を誰しもが「豊かさ」として大切にしような成熟した社会。その到来を来世紀に祈りつつ、「流行」の彼方に「不易」を見据えた研究こそが、われわれに課せられた宿題であり、また喜びなのかも知れません。本論集がその細かな場の一つとして世紀末の先に新たな展望を拓き続けて行くことを信じます。

(諸田龍美記)